

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102444
法人名	医療法人社団 和恵会
事業所名	グループホーム入野やわらの家
所在地 (電話番号)	浜松市西区入間町6410 (電話) 053-440-3977

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.53、6.04

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り 2階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和恵会記念病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関前は、季節の花で飾られ、さりげないホーム表示がある玄関ドアを開けると「自宅に人を迎える」もてなしの姿勢で迎えてくれる。ホーム内の共有スペース、廊下等はゆったりと広々とした空間が確保され、利用者の落ち着いた穏やかな表情から、職員が常に利用者と真摯に向き合い、充実した生活を支援している様子を感じることができる。事務処理(計画や記録管理等)も効率化を図り、できる限り利用者に寄り添って行こうと取り組んでいる。運営法人自身が認知症高齢者に対して先駆的に取り組んできたこともあり、地域との交流を深め、地域に根付いたホームづくりを進めてきた。開設3年を経過し、今後の取り組みにも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員全員で評価結果の確認を行い、内容の共有に努め、計画的に改善を図っている。定期的な運営推進会議でもその状況を適宜報告し、確認している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義について理解の共有に努め、全ての職員で自己評価に取り組んだ。これまでの取り組みを振り返り、今後更なる取り組みに繋げるための一つと位置付け、有効に活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、自治会、老人クラブ、民生委員、介護相談員、家族、職員等が参加し、ホームの運営状況報告を行い、サービス提供方法等に多くの意見を得ている。出された意見は記録に残し、それを職員間の共有に努めるとともに、それを運営に活かすようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が何でも言えるような雰囲気づくりに留意し、些細な相談や運営やサービスに対する意見、要望、苦情の把握に努めている。把握した内容を、速やかに確認し、即対応するようにし、必要に応じて開示する体制が確立している。家族アンケートからも信頼が寄せられている様子が見える。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流、地域に根付いたホームづくりに一貫して取り組んできた。地域や近隣住民との交流も盛んで、日常的に交流を深めている。自治会に加入し、利用者も地域老人会に登録する等、利用者の生活の幅を広げ、生活の質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとして、「親切・丁寧・平等」を基本に、「安心できる地元生活を支える」を独自の理念として定めている。地域及び地域住民との交流、地域に根ざしたホームづくりを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に何を大切にすべきか管理者、職員が共に確認し合い、利用者や家族の希望や思いを汲み取り、理念の実現に向けて取り組んでいる。理念内容については、定期的に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は自治会、老人クラブに加入し、花見、花火大会、運動会、遠足等の地域行事に参加し、積極的に地域との交流を行っている。また、ホーム行事以外にも地域住民が気軽にホームに立ち寄るまでに交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、委員会等で検討し、必要な事柄は計画的に改善を図るとともに、更なる取り組みに繋げていこうと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、市職員、自治会代表者、老人クラブ代表者、民生委員、介護相談員、家族2名、職員(内部委員会)が参加して定期的に開催している。外部評価結果やホームの現状報告を行い、活発に意見交換を行い、サービス向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には運営推進会議への出席を得て、活発に意見交換を行っている。それ以外にも必要に応じて、連絡を取り合うが、利用者へのサービス向上に向けての定期的なケース検討や事例研修を行うにまでは至っていない。	○	保険者である市(職員)に働きかけ、利用者のサービス向上に向けて、定期的な話し合いや実態を共有していくなどの働きかけを組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話等で、定期的に利用者の生活の様子を伝えている。月に一度は、金銭管理状況を報告するとともに、年4回「ホーム便り」を発行し、日常生活の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に何でも意見を言えるような雰囲気づくりに取り組むとともに、定期的に満足度アンケートを実施したり、意見箱を設置する等している。出された意見等は、会議等で検討し、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職についての利用者へのダメージを理解し、できる限りそれを防ぐように取り組んでいる。労働条件の改善や福利厚生の実施にも取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上について意欲をもって取り組んでいる。教育履修計画を策定し、経験や習熟度に応じて研修実施する体制が確立している。プリセプターシップ制度も活かし、職場内研修も充実させている。また、計画的に外部講師を招き、研修を行う等している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム連絡協議会等に加入し、各種の情報を把握するとともに、近隣施設(事業所)等と定期的に職員研修を行い、情報の共有と質の向上に向けて職員相互研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込み時には、自宅訪問やホーム見学を重ねるとともに、職員とも顔なじみの関係づくりを行っている。また、併設しているデイサービスの利用も促したうえで、利用に繋げるようにしている。利用者一人ひとりに応じたサービス提供を行う姿勢で取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干作りや植物栽培、調理等を利用者から教えられたり、ともに過ごす中で信頼関係を構築し、ともに喜び合える関係づくりを目指して取り組んでいる。利用者に寄り添いながらお互いの関係を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常的な会話、表情や行動等から一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。得られた情報は記録し、職員間で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向、課題等を情報シートに詳細に記入し、担当者会議で検討したうえで、介護計画を策定している。介護計画策定には全ての職員が関わるようになっており、計画内容についても共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に3ヶ月に一度、見直しを行っている。これまでのサービス内容の評価を行い、利用者の状況把握、確認を行い、見直している。必要に応じた内容の改善や見直し等は随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの特性を活かし、利用者や家族の希望や意向にできる限り対応するように努めている。本来の支援だけでなく、利用者の生活の充実や必要に応じたサービス提供を弾力的、多角的に行うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を大切にたかかりつけ医への受診支援を行っている。また、同一法人内の協力病院との連携を図り、利用者の状態により、常に相談できる仕組みがある。協力病院をかかりつけ医にする利用者も多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行わない方針を策定し、利用者及び家族に説明し、理解を得たうえで利用を開始している。利用者の状況により、医療機関と連携を図り、段階的な支援方法を確認している。	○	今後も利用者や家族の意向を確認し、ターミナルケアに対してどのように対応するのかを定期的に検討して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや接し方等について、常に職員間で確認し合う等、利用者の尊厳や人格を損ねることが無いように接している。接遇研修を年間計画に盛り込んで、羞恥心等にも配慮した支援を行っている。個人情報保護についても内容を理解し、適切に厳格に取り扱うように定めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、食事時間等も利用者のペースに沿って個別支援している。思いが実現するように、職員は利用者へ耳を傾け、生活が充実するように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物し、調理や準備、片付け等と一緒にやっている。旬の食材も活かし、彩りや量についても利用者と相談しながら楽しく食事できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴したい時間にいつでも入浴できるように、昼間から夜間まで入浴を楽しめるように支援している。湯の温度もその人の好みに調整している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の役割分担が日常生活の中で自然になされ、それぞれ職員とともに楽しく行っている。また、地域活動に参加する他、利用者の趣味や希望に沿って様々な活動が行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を把握し、散歩や買い物等に外出できるように積極的に支援している。ホームに閉じこもることが無いように関心をもって外出できるように促している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠するが、日中は一切鍵をかけない支援をしている。鍵をかける弊害を理解し、利用者の行動を制限することなく、見守り、寄り添う支援を実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。自治会にも加入しているので、地域防災訓練にも参加している。災害緊急対応マニュアルを作成し、内容を職員が随時確認している。	○	あらゆる状況を想定し、必要に応じて近隣住民にも協力を仰げるような訓練の実施、協力体制の確保についても検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量について記録し、月2回体重測定を行っている。栄養バランスに留意した献立を作成し、個別に微調整を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間であるオープンスペース部分は広く、明るく居心地良い空間となっている。いたる所に椅子が置かれ、会話を楽しんだり、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室スペースは十分な広さが確保され、「本人の部屋」を重視し、使い慣れたもの、本人にとって大切なものが持ち込まれ、個性のある居室となっている。また、居心地良くするために、利用者や家族にも定期的に意見を聞いている。		